

高石工業株式会社

2015年度環境活動レポート

(2015年4月～2016年3月)



作成日 : 2016年5月29日
更新日 : 2017年2月1日

□ごあいさつ

弊社は2014年4月に創業68周年を迎えました。これからも持続的成長を目指す弊社にとって、環境的側面を考慮することは必須であると考えます。経営理念の「三方よし」の「世間よし」の考え方に基づき、「人にやさしく、地球にやさしい」企業であるための取り組みを行います。

高石工業株式会社

代表取締役 高石 秀之

<環境理念>

当社はかけがえのない地球環境を次の世代に伝えていくことを重要課題の一つとして認識し、工業用精密ゴム部品製造・研究開発事業活動において「地球にやさしく、人にやさしく」を企業活動の基本として行動します。つきましては、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応により環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

<基本方針>

当社は、工業用精密ゴム製品の開発・設計・製造・販売を通じて、社会に貢献している。当社の事業活動及び製品が及ぼす環境への影響を常に認識し、汚染の予防と環境負荷の低減に努めます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）

- ・電力（工場、事務所）
- ・自動車燃料（営業車）

②廃棄物の削減及び再資源化の推進（循環型社会への対応）

- ・一般廃棄物
- ・産業廃棄物（廃プラ）

③排水量の削減（水資源の保全）

- ・一般水道水
- ・地下水

④化学物質購入量の削減

- ・環境負荷の少ない原材料による製品の研究・開発

⑤グリーン購入、グリーン調達への取り組み

- ・環境対応製品の調達比率UP

⑥製品への環境配慮

- ・製品の環境負荷の調査

⑦地域環境への取り組み

2. 当社に適用される環境に関する法規則及び同意するその他の要求事項を遵守します。

3. 全従業員にこの環境方針を周知徹底し、全員参加で実施、維持します。

4. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：2008年11月11日

改定日：2010年 4月 1日

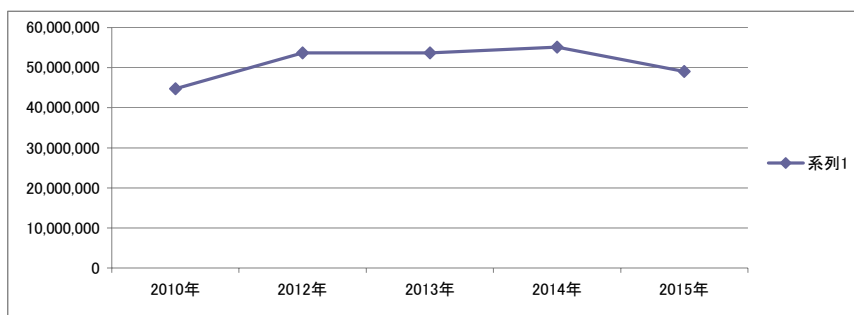
代表取締役社長 高石 秀之

□登録事業所の概要

- (1) 事業所名及び代表者名
高石工業株式会社
代表取締役社長 高石 秀之
- (2) 所在地
本社:大阪府茨木市主原町3-18
関連事業所 あり 2箇所
鳥取工場:鳥取県鳥取市湖山町東4丁目43番地
山崎工場:兵庫県宍粟市山崎町段815番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 総務部長 高石 純二 TEL:072-632-3365
担当者 古家 育真
- (4) 事業内容(認証・登録の範囲)
工業用精密ゴム製品製造
- (5) 事業の規模

主要製品生産数量(個)

2010年	2012年	2013年	2014年	2015年
44,700,833	53,667,085	53,720,299	55,096,486	49,030,405



	本社	鳥取工場	山崎工場
従業員	35	33	11
延べ床面積	1739㎡	1314㎡	553㎡

- (6) 事業年度 4月～3月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: **高石工業株式会社**
本社・大阪工場
鳥取工場
山崎工場

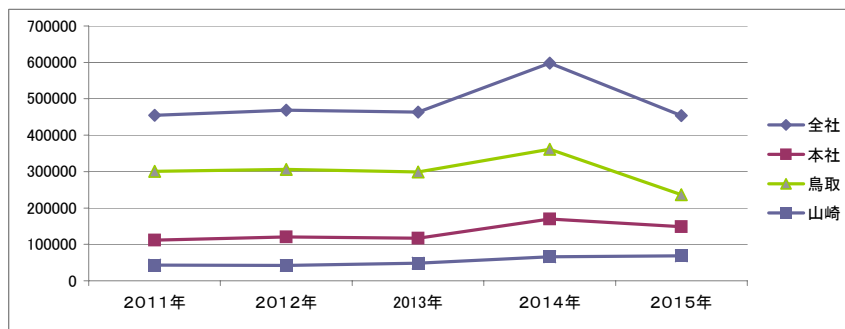
活動: **工業用精密ゴム製品製造**

□主な環境負荷の実績(CO2 kg)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
全社	455,081	469,105	463,643	597,902	453,595
本社	111,372	120,340	116,872	170,151	148,443
鳥取	300,559	306,467	298,818	361,667	236,526
山崎	43,150	42,298	47,952	66,084	68,626

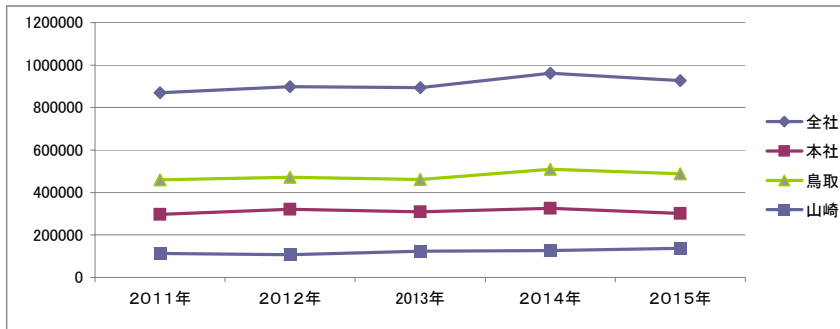
電力の二酸化炭素排出係数

本社:2013年度までは0.355、2014年度は0.523、2015年度は0.472。
鳥取:2013年度までは0.628、2014年度は0.709、2015年度は0.472。
山崎:2013年度までは0.355、2014年度は0.523、2015年度は0.472。



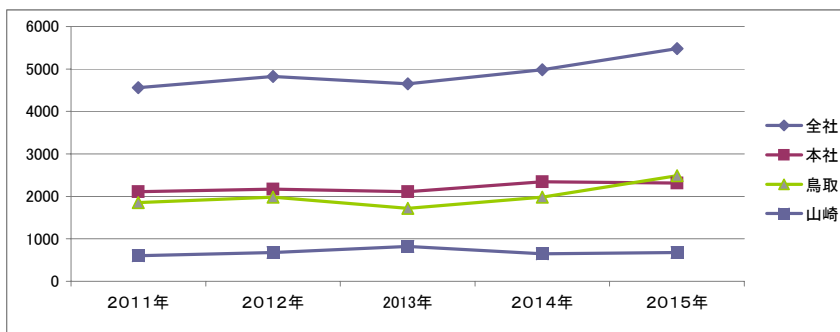
□主な環境負荷の実績(電力 kWh)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
全社	869,796	899,039	893,585	961,801	926,839
本社	296,788	320,666	309,016	325,337	301,372
鳥取	460,410	471,318	460,974	510,108	488,652
山崎	112,598	107,055	123,595	126,356	136,815



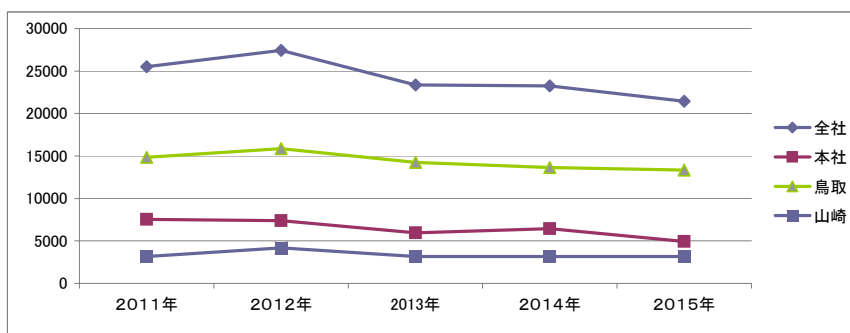
□主な環境負荷の実績(ガソリン l)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
全社	4,562	4,825	4,652	4,980	5,477
本社	2,107	2,169	2,107	2,347	2,313
鳥取	1,855	1,981	1,722	1,981	2,489
山崎	600	675	823	652	675



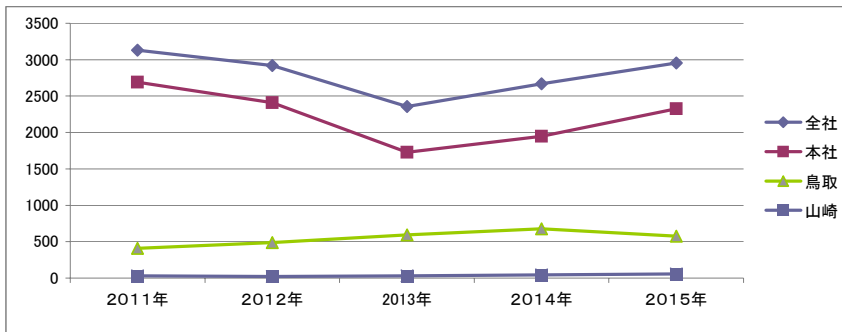
□主な環境負荷の実績(産業廃棄物排出量 kg)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
全社	25,531	27,440	23,350	23,250	21,440
本社	7,521	7,390	5,960	6,450	4,950
鳥取	14,860	15,850	14,240	13,650	13,340
山崎	3,150	4,200	3,150	3,150	3,150



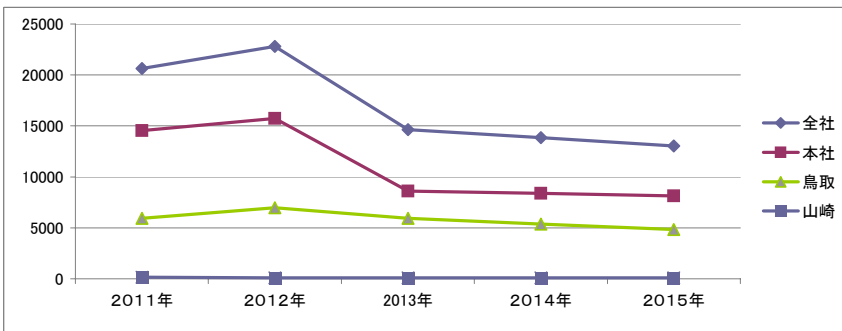
□主な環境負荷の実績(一般廃棄物排出量 kg)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
全社	3,130	2,918	2,355	2,667	2,955
本社	2,690	2,408	1,730	1,948	2,324
鳥取	410	486	594	676	576
山崎	30	24	31	43	55



□主な環境負荷の実績(総排水量 m³)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
全社	20,628	22,787	14,647	13,862	13,043
本社	14,527	15,740	8,619	8,386	8,129
鳥取	5,951	6,957	5,925	5,379	4,822
山崎	148	90	103	97	92



□環境目標及びその実績(全社)

項目 \ 年度		2010年	2015年		2016年	2017年
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
基準年度との生産量比		44,700,833		49,030,405		
電力の削減	kWh	899,039	881,058 98%	926,839 103%	926,844 97%	863,077 96%
ガソリンの削減	L	4,825	4,729 98%	5,477 114%	4,680 97%	4,632 96%
産業廃棄物(廃プラ等)の削減	(Kg/年)	22,980	22,520 98%	21,440 93%	22,291 97%	22,061 96%
一般廃棄物の削減	(Kg/年)	2,880	2,822 98%	2,205 77%	2,794 97%	2,765 96%
節水(水道水+地下水)	(m ³ /年)	3,012	2,259 75%	3,053 101%	2,922 97%	2,892 96%
購入資材への環境配慮	母数	1,013,569	0	477,532	0	
	グリーン購入	509,171		205,387		
	比率	50%	50%	43%	50%	50%
製品への環境配慮	Rods指令物質の検査回数	2		6		
化学物質購入量の削減(トルエン・MEK)	kg	458	449 98%	227 50%	444 97%	440 96%
化学物質購入量の削減(PRTR物質使用量)		1,010	990 98%	715 71%	880 87%	880 87%

(注)電力の二酸化炭素排出係数は工場によって異なる

(注)その他の取り組みがあれば追加して記入する

(注)電力の二酸化炭素排出量削減とガソリン・軽油の二酸化炭素排出量削減についての2013年度以降の目標は、基準年を2012年として見直しをした

(注)2013年度以降の朱記は2012年度の代表者の見直しにより修正

(注)製品への環境配慮についての2013年度以降の目標は、基準年を2011年として見直しをした。

□環境目標及びその実績(本社)

項目 \ 年度		2010年	2015年		2016年	2017年
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力の削減	kWh	320,666	314,253 98%	301,372 94%	311,046 97%	307,839 96%
ガソリンの削減	L	2,169	2,126 98%	2,313 107%	2,104 97%	2,259 96%
産業廃棄物(廃プラ等)の削減	(Kg/年)	7,900	7,742 98%	4,950 64%	7,663 97%	7,584 96%
一般廃棄物の削減	(Kg/年)	2,324	2,278 98%	1,574 68%	1,859 65%	2,231 65%
節水(水道水+地下水)	(m ³ /年)	1,738	939 54%	954 55%	939 54%	939 54%
購入資材への環境配慮	母数			281,773		
	グリーン購入			116,940		
	比率	48%	55%	42%	50%	50%

□環境目標及びその実績(鳥取)

年度 項目		2010年	2015年		2016年	2017年
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力の削減	kWh	471,318	461,891 98%	488,652 104%	457,178 97%	452,465 96%
ガソリンの削減	L	1,981	1,942 98%	2,489 126%	1,922 97%	1,902 96%
産業廃棄物(廃プラ等) の削減	(Kg/年)	13,470	13,201 97%	13,340 99%	13,066 97%	12,931 96%
一般廃棄物の削減	(Kg/年)	534	523 98%	576 108%	518 97%	513 96%
節水(水道水+地下水)	(m ³ /年)	1212	1,188 98%	2,021 167%	1,818 150%	1,818 150%
購入資材への環境配慮	母数 グリーン購入 比率			112,682 59,033		
		53%	50%	52%	51%	50%

□環境目標及びその実績(山崎)

年度 項目		2010年	2015年		2016年	2017年
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力の削減	kWh	107,055	104,914 98%	136,815 128%	103,843 97%	102,773 96%
ガソリンの削減	L	675	662 98%	675 100%	655 97%	648 96%
産業廃棄物(廃プラ等) の削減	(Kg/年)	3,150	3,087 98%	3,150 100%	3,056 97%	3,024 96%
一般廃棄物の削減	(Kg/年)	22	22 97%	55 250%	51 230%	51 230%
節水(水道水+地下水)	(m ³ /年)	62	61 98%	78 126%	60 97%	59 96%
購入資材への環境配慮	母数 グリーン購入 比率			83,077 29,414		
		53%	55%	35%	60%	65%

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組み内容(全社)

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
電力の削減 数値目標 ・冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃) ・クールビズ・ウォームビズ運動 不要照明の消灯 工程ロス削減	× ○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標を達成出来なかった。 ・原単位では(926,839kwh/49,030,405個=0.0189)となり、基準年度(2012年0.0167)と比較して増えている為、節約を訴求していきたい。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
ガソリン使用量の削減 数値目標 エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷房の控えめ使用 ・買換え時は燃費マークを優先	△ ○ ○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・基準年度及び、目標には達さなかった。 ・生産量が増えている為、工場間の往來も増えたのが要因と思われる。 ・引き続きエコ運転を訴求し続ける。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
産業廃棄物(廃プラ)の削減 数値目標 ・適正量でゴムを混練する ・混練の失敗を減らす	○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・基準年、目標共に達成できた。この調子を保っていきたい。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
一般廃棄物の削減 数値目標 ・ダンボール等の廃品回収 ・シュレッダーごみの再利用 ・裏紙の再使用	○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・基準年、目標共に達成できた。 ・昨年度より引き続き段ボール等を大阪に集めて廃品回収として処分するなど少しでも廃棄物として出す物を減らしている。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
節水(水道水+地下水) 数値目標 ・節水の呼びかけ	× ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標は達成できなかった。 ・原因は一部工場で漏水があった為。
購入資材への環境配慮 数値目標 有害性の少ない資材の購入 省エネ性能の高い電気製品の 燃費の良い自動車の採用	○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標である50%を達成できた。前年が32%だったので改善できている。しかし、購入しなければならない物品の全てに、グリーン購入品がある訳ではないので、50%以上の比率を目指すことは難しいと思われる。 ・来年は目標を50%に設定し、今年の調子を保っていきたい。

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組み内容(本社)

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
電力の削減 数値目標 ・冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃) ・クールビズ・ウォームビズ運動 不要照明の消灯 工程ロス削減	○ ○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標を達成出来た。 ・生産量の減少が効いていると思われる。
ガソリン使用量の削減 数値目標 エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷房の控えめ使用 ・買換え時は燃費マークを優先	× ○ ○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標値を達成できませんでした。 ・生産量の増加などで工場間の往來が多くなったことが影響していると思われる。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
産業廃棄物(廃プラ)の削減 数値目標 ・適正量でゴムを混練する ・混練の失敗を減らす	○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標基準年共に達成した。 ・来期もこの調子を保ちたい。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
一般廃棄物の削減 数値目標 ・ダンボール等の廃品回収 ・シュレッダーごみの再利用 ・裏紙の再使用	△ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・ダンボール等の廃品回収はできているが、焼却処分のゴミが増える傾向にある。 ・さらに削減に取り組む。
節水(水道水+地下水) 数値目標 ・節水の呼びかけ	△ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・基準年比ではクリアしているが、目標は達成できていない。 ・節水を呼び掛ける。
購入資材への環境配慮 数値目標 有害性の少ない資材の購入 省エネ性能の高い電気製品の 燃費の良い自動車の採用	○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標の50%は達成できた。グリーン購入で買えないものもあるので、選択肢が無い場合はどうしようもないが、引き続き購入時には心掛ける。

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取り組み内容(鳥取)

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
電力の削減 数値目標 ・冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃) ・クールビズ・ウォームビズ運動 不要照明の消灯 工程ロス削減	× ○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標を達成出来なかった。 ・今回は機械の稼働率も高く、空調機器も増えた事もあり削減は出来なかった。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
ガソリン使用量の削減 数値目標 エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷房の控えめ使用 ・買換え時は燃費マークを優先	× ○ ○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・山崎工場への往来が増えた為、達成できなかった。
産業廃棄物(廃プラ)の削減 数値目標 ・適正量でゴムを混練する ・混練の失敗を減らす	△ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・機械の稼働率も高く、それによって出るバリの量も多かった事もあり達成できませんでした。基準年比は達成しています。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
一般廃棄物の削減 数値目標 ・ダンボール等の廃品回収 ・シュレッダーごみの再利用 ・裏紙の再使用	△ ○ ○ ○	・目標達成ならず。 ・来季は削減の呼びかけで目標達成を目指す。
節水(水道水+地下水) 数値目標 ・節水の呼びかけ	△ ○	□上方修正 ■下方修正 □基準見直し ・冷風扇の使用もあり達成できないのは想定内。 ・目標値の見直しが必要。(次年度は基準年比150%とする)
購入資材への環境配慮 数値目標 有害性の少ない資材の購入 省エネ性能の高い電気製品の 燃費の良い自動車の採用	△ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・今後もグリーン製品を意識して購入に心掛けたい

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取り組み内容(山崎)

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
電力の削減 数値目標 ・冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃) ・クールビズ・ウォームビズ運動 不要照明の消灯 工程ロス削減	× ○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・目標を達成出来なかった。 ・要因としては15号機の稼働に伴い、DCオープンの使用も増えた事もある。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
ガソリン使用量の削減 数値目標 エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷房の控えめ使用 ・買換え時は燃費マークを優先	△ ○ ○ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・軽四からバネットに入れ替え燃費が良くなった事もあり、ほぼ達成出来たのではと思われます。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
産業廃棄物(廃プラ)の削減 数値目標	△	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・機械の稼働率が良くなり廃棄物が増え目標を達成できませんでした。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
一般廃棄物の削減 数値目標 ・ダンボール等の廃品回収 ・シュレッダーごみの再利用 ・裏紙の再使用	△ ○ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・達成できませんでした。(焼却処分の廃棄物がふえている) ・目標の見直しが必要かも
節水(水道水+地下水) 数値目標 ・節水の呼びかけ	△ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・夏場に予想以上に使用量が多く、達成できませんでした。 ・次年度の目標は変更せずに取り組む。
購入資材への環境配慮 数値目標 有害性の少ない資材の購入 省エネ性能の高い電気製品購入	△ ○ ○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ・達成する事が出来なかったが、購入したい物の中にグリーン製品が無いとどうする事も出来ないで、止むを得ない。 ・引き続きグリーン製品購入の意識を持つように努める。

□環境関連法規制等の順守状況(本社)

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油等)
騒音・振動規制法	空圧機、ロール機
PRTR法	DEHP、チウラ
毒物及び劇物取締法	メタノール、トルエン、MEK
消防法(危険物)	トルエン、MEK、機械油、硫黄、有機過酸化化合物
労働安全衛生法	使用化学物質のSDSの入手とリスクアセスメントの実施
高圧ガス保安法	液体窒素
大気汚染防止法	ロール機
フロン排出抑制法	業務用空調機、コンプレッサー、冷凍機
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特	高圧コンデンサ、放電コイル、PCBを含む油

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
大気汚染防止法の立ち入り検査があり書類の不備が指摘されましたが、すでに手続きは完了しました。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□環境関連法規制等の順守状況(鳥取)

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油等)
毒物及び劇物取締法	メタノール、トルエン、MEK
PRTR法	DEHP、チウラム、トルエン、
消防法(危険物)	トルエン、MEK、機械油、硫黄、有機過酸化化合物
労働安全衛生法	使用化学物質のSDSの入手とリスクアセスメントの実施
高圧ガス保安法	液体窒素
フロン排出抑制法	業務用空調機、コンプレッサー、冷凍機
家電リサイクル法	家庭用空調機
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特	高圧コンデンサ、放電コイル、PCBを含む油

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□環境関連法規制等の順守状況(山崎)

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油等)
毒物及び劇物取締法	メタノール、トルエン、MEK
PRTR法	トルエン
消防法(危険物)	トルエン、MEK、機械油
労働安全衛生法	使用化学物質のSDSの入手とリスクアセスメントの実施
フロン排出抑制法	業務用空調機、コンプレッサー、冷凍機

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□代表者による全体の評価と見直し

- 産廃、一廃については目標をクリアしている。
- 電力について、新電力に切替えたため、電力のCO2変換係数が変わってため、CO2排出量で比較評価するのが難しくなった。次年度からは、今年度を基準にして評価していきたい。
- ガソリン使用量について、工場間の往來が多く、目標を達成できなかった。
- 製品への環境配慮について、RoHS分析は当社の取り組み余地が無いので、次年度は違う項目の検討してほしい。
- 化学物質の削減について、使用量は目標値から大幅に削減されているが、購入量の削減はコントロールし難い。

□その他の取り組みを紹介

今年度も東中学校より2名の生徒が職場体験実習として、製造現場で成形作業と仕上げ作業を行いました。

